

第2学年 保健体育科 学習指導案

単元名 球技【ベースボール型】「ティーボール」

日時 令和6年 9月20日(金) 第6校時
学年 第2学年 13名(男子8名 女子5名)
指導者 山本 凌真

1 単元について

(1)単元観

本単元は、本単元は、学習指導要領「E 球技」の「ベースボール型」に位置付けられており、個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で得失点をめぐる攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

第1学年の止まったボールやトスされたボールを打ったり、定位置で守ったりする攻防を展開することをねらいとした学習を受けて、第2学年でも、攻撃を重視し、易しい投球を打ち返したり、定位置で守ったりする攻防を展開できるようにする。ボールを捕ったり投げたり、バットでボールを打つ技能習得には多くの時間が必要であるが、グラウンドの広さ、用具など、プレー上の制限を工夫したゲームを取り入れることで、個人やチームの力に応じた作戦を立て、ゲームを楽しむこともできるように学習を進めていきたい。

(2)生徒観

本学級は男子8名、女子5名の計13名の生徒がおり、運動やスポーツを好きな生徒が比較的多い傾向がある。授業でも、運動が得意な生徒や好きな生徒が中心となり、意欲的に取り組む姿が見られる。一方で、知識・技能の定着度や思考の深まりには個人差が大きく、運動やスポーツを行う上でのマナーを守ったり、仲間・相手を尊重し合う態度があまり身につけていない生徒もいる。

1年時のティーボールの授業では、個人的技能の習得を目指し、基礎的な技術練習を中心に授業を展開した。しかし、技術の定着度やルールを理解度の個人差が大きく、ゲームでは捕球や送球、バッティングがあまり機能していない場面が時折見られた。

質問項目	好き	まあまあ好き	あまり好きでない	嫌い
ティーボールは好きですか。	38.5%	7.7%	30.8%	23.1%
ティーボールで楽しいと思うのはどんなときですか。	捕球したとき 打撃したとき 試合に勝ったとき 仲間と協力できたとき ホームランを打ったとき など			

また、アンケートの結果を見ると、ティーボールに対して肯定的な意見を持つ生徒と否定的な意見を持つ生徒の二極化傾向があり、「どんなときに楽しいと思ったか」に対しては、個人的技能に関する回答が多い一方で、集団的スキルに関する回答は少なかった。

このような現状から、ティーボールを楽しむには個人的技能を引き上げることはもちろん、それぞれの生徒が成功体験を重ね、チームの中で自己肯定感を高めていく必要がある。そして、個人的技能とともに集団的スキルも高められるようにゲームの時間も十分に確保していきたい。

(3)指導観

「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 保健体育編」において、「体育の見方・考え方」については、次のように整理されている。

生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現する観点を踏まえ、「運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の特性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること」

学習形態としてはグループ学習を主とする。学び方(安全面、きまり等)については、毎時間のはじめに確認させ、徹底を図る。また、基本的な技能の習得を重要視し、生徒同士の教え合い学習が充実するように、ICTを活用したバッティングフォームの分析をしたり、動きのポイントや作戦のヒントとなる言葉や図を整理し、ボードにまとめておいたりして、自己やチームの学習を可視化できるようにしておく。

本学習では、指導と評価の一体化を図るために次の評価活動を行う。学習シートを活用し、毎時間の自己評価・相互評価が的確に行えるように、評価の視点を明確に示す。ゲーム中や話し合いの際の生徒の行動や発言を通して、技能や戦術に関する思考・判断・表現について評価を行う。

2 単元目標

- (1) 基本的なバット操作と走塁での攻撃，ボール操作と定位置での守備などによって攻防をすることができるようにする。【知識及び技能】
- (2) 攻防などの自己の課題を発見し，合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。【思考力，判断力，表現力等】
- (3) 球技に自主的に取り組むとともに，フェアなプレイを守ろうとすること，作戦などについての話合いに参加しようとする事，一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする事，仲間の学習を援助しようとする事などや，健康・安全に気を配ることができるようにする。【学びに向かう力，人間性等】

<単元の評価規準>

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
【知識】 ①球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり，それらを身に付けるためのポイントがあることについて言ったり書き出したりしている。 【技能】 ②地面と水平になるようにバットを振りぬくことができる。 ③ボールの正面に回り込んで，緩い打球を取ることができる。	①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に，仲間の課題や出来映えについて，伝えている。 ②提供された練習方法から，自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。	①マナーを守ったり相手の健闘を認めたりして，フェアなプレイを守ろうとしている。 ②一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを認めようとしている。

3 単元計画 全 時間（本時 8時間目）

(1) 指導と評価の計画

時	学 習 内 容	評 価				
		知	思	主	評価規準	評価方法
1	課題の設定 ○競技の特性を理解し，個人的技能のポイントを思い出す ●競技の特性（ルール，技の名称，学び方） ●補助運動 ●キャッチボール ●捕球・バッティング ●簡易ゲーム，スキルチェック（ティーボール，トスボール）	◎			ア① 球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり，それらを身に付けるためのポイントがあることについて言ったり書き出したりしている。	振り返りシート
2	情報の収集 整理・分析 ○仲間と協力して，正しいバット操作を身につける ●補助運動 ●キャッチボール ●捕球練習 ●バッティング練習	○			ア③ ボールの正面に回り込んで，緩い打球を取ることができる。 イ① 提示された動きのポイントやつ	観察 観察

	●簡易ゲーム				まずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えについて、伝えている。	
3	整理・分析 ○ボールをよく見て、水平にスイングできる ●補助運動 ●三角キャッチボール ●バッティング練習 ●狙った方向にバッティング ●打撃・送球ゲーム	◎			ア② 地面と水平になるようにバットを振りぬくことができる。	観察
4	整理・分析 ○捕球から送球までのリズムをつかむ ●補助運動 ●ローテーションキャッチボール ●三角キャッチボール ●捕球→送球練習 ●簡易ゲーム ●課題発見	◎			ア③ ボールの正面に回り込んで、緩い打球を取ることができる。	観察
5	表現・分析 ○走塁判断について考える ●補助運動 ●ローテーションキャッチボール ●作戦タイム ●簡易ゲーム			◎	ウ① マナーを守ったり相手の健闘を認めたりして、フェアなプレイを守ろうとしている。	観察 振り返りシート
6 本 時	表現・分析 ○守備位置について考える ●補助運動 ●ローテーションキャッチボール ●作戦タイム ●簡易ゲーム			○	ウ② 一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを認めようとしている。	観察 振り返りシート
7	まとめ ○チームの特性に合った練習を選択する ●補助運動 ●選択した練習 ●作戦 ●簡易ゲーム ●振り返り	◎			イ② 提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。	観察
8	まとめ ○チームの特性に合った作戦を考える ●補助運動 ●スキルチェック、捕球練習 ●作戦 ●簡易ゲーム ●振り返り			◎	ウ② 一人一人の違いに応じた課題」	観察

(2) 単元の終末で見取るパフォーマンス評価

パフォーマンス課題		評価基準	
これから3人組を作り、バッター、ボール拾い、サポートに分かれてバッティングを行います。バッティングはティースタンドかトスを用いて1人6球ずつ打ちます。狙った方向にボールを打てるようにこれまでの学習で学んできたことを意識して取り組んでください。	A		足の位置や体の角度、打つポイントを変えてバッティングができる。
	B		バットを正しい姿勢で振り、芯でボールを捉えることができる。
	C		バットを握り、ボールを捉えることができる。
これからボールの捕球と送球を行います。ゴロやフライなどのボールを捕球し、1塁方向へ送球します。1人5球ずつ行います。	A		ゴロを膝を曲げて捕球ができる。 ステップを踏み、送球まで滑らかにできる。
	B		落下地点や正面に入ってボールを捕球することができる。 1塁手へ正確に送球ができる。
	C		ボールをスムーズに捕球できない。 1塁手へ送球ができる。

4 本時の学習

(1) 本時の目標

- 役割や相手打者に応じた守備位置をとることができるようにする。
- 一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを認めようとするようにする。

(2) 本時の評価規準

- ウ②一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを認めようとしている。

(3) 本時のめざす生徒の姿（評価基準）

評価基準		生徒の姿	基準達成のための手立て
A	一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などについて助言をしたり、教え合おうとしたりしている。	仲間の挑戦や修正に対してアドバイスをしたり、苦手なプレーについて味方に訊いたりしている。	動きのポイントや作戦のヒントとなる言葉や図を整理し、視覚的に示しておく。
B	一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを認めようとしている。	挑戦や修正に対して、褒め合ったり、励ましあったりしている。	良いプレーやミスが起こったときのかけ声をチームごとに決めさせておく。
C	「B」を満たしていない。	「B」を満たしていない。	

(4) 準備物

バット2本、ティースタンド1本、振り返りシート、ソフトボール6球、グローブ13個、黒板スコアボード

(5) 学習の展開

学習活動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への手立て)	評価規準[観点] (評価方法)
1 準備運動, 補助運動 2 本時のめあて 3 キャッチボール (2人組) 1分間キャッチボール 4 守備位置の設定 チームでの話し合い① (予想される生徒の反応) ・相手チームのF君が打つときは全体的に後方へ下がろう。 ・Oさんが打つとき、内野は前に出て、捕球できる準備をしておこう。 5 簡易式ゲーム (2～3回まで) 6 打たれた後の動きの確認 チームでの話し合い② (予想される生徒の反応) ・打者が進塁する先のベースに近い人がカバーに入ろう。 ・遠くに打球が飛んだときは捕球した人と送球したい場所の間に入って中継をしよう。	【めあて】守備位置を工夫してアウトをとろう ◇前時までの学習内容を確認する。 ◇授業のきまり, 安全等を確認する。 ◇準備・ステップを心がけて試合をイメージさせる。 ◆キャッチの際のグローブの向きや開き方について指導する。 ◇キャッチをした後のすばやいスローイングを意識させる。 ◇守備位置のパターンを3つ決めさせて, その理由までチーム全体で共有させる。 ◇その守備位置をとることでどうやってアウトをとれるかまで共有しておく。 ◆守備位置の理解ができない生徒へは再度, アウトになる場合を思い出させる。 ◇1回の守りは打者が変わるごとに守備は集まり, 守備位置の確認をさせる。 ◇実際にアウトがとれたプレーととれなかったプレーを上げ, 守備位置と打たれてからのプレーを分析させる。	○一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを認めようとしている。(観察)
7 簡易ゲーム (4～5回まで) 8 【まとめ・振り返り】 (めざす生徒の姿・まとめ) ・チームのみんなで同じ目的をもってプレイすれば, アウトがとりやすくなることが分かった。 ・バッターによって守備位置を変えるとアウトがとれたり, 進塁を防いだりすることができた。 ・守備位置を意識しても空いたところに打たれたら対応しづらいことがあった。 ・アウトをとるための自分の役割がはっきりしていたので, プレイしやすかった。	【体育の見方・考え方】 ただプレイするだけでなく, 自己や仲間の動きを観察したり, 攻防を通して自己や仲間の課題や強みを発見したりして「する・みる・支える・知る」といった多様な関わり方ができる。 ◆プレイ中に上手くいかなかったことはその場でチームで集まって話し合いをさせる。 ◆アウトをとるために自分やチームで取り組んだことを振り返らせる。 ◇良かった作戦や動きについて紹介し, 本時の学習内容を確認する。	○一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを認めようとしている。 (振り返りシート)

(6) 板書計画

